

資料No.2-1(参考)総合戦略(基本目標Ⅰ～Ⅳ)分科会対応後一覧

基本目標	基本施策	実施施策 KPI	ページ	意見の概要	修正内容
Ⅰ			45	これが一番大事なものになるという理解で良いか。	全体KPIについては、アウトカム指標として、経済センサスから市内従業者数(第1～3次産業までの合計)を用いる。
Ⅰ	1	KPI	48	基本施策はKPIが一つしかない、増やしても良いのではないか。	チャレンジ応援企業補助金採択件数を新たなKPIとして追加する。
Ⅰ	1	KPI	48	範囲が多岐に及び、かつ関連性が相互にあり、難しいところがある。全体的な話になるが、KPIが雑なイメージがある。内容が多岐にわたって、数が多く、何をどうして良いか分からない。これというものに絞っても良いのではないか。多くのことをやろうとしても、非常にパワーが足りない。取組を絞ることはお互いにとって良く、市民への訴求力も増すのではないか。	「KPIを増やした方がよい」という意見と「絞る方がよいという意見」の双方をいただいている。総合戦略には行政の行動計画としての役割があり、その進捗の指標として、各分野、ある程度の数のKPIは確保したい。
Ⅰ	2, 4		49 55	資料2-2であるが、KPI自体の数値をどう設定するのかの話もあるので、達成したかどうかだけが重要ではない。例えば5番「新たな自社ブランド創出事業採択数」では、令和6年度末の目標値が8件に対して、既に令和4年度末で15件に達している。非常に注目すべき伸び率で、鯖江市ならではの特徴が出ている。同様に13番「女性起業家数」も同じようなことになっている。これらは鯖江らしさを象徴する動きとして、鯖江の魅力として強くアピールできるポイント。もっと市の特徴として記載してはどうか	P49の現状に「想定を上回る自社ブランドが誕生するなど一定の成果をあげています。」を追記 P55の現状に「女性起業家数は順調に増加しています」を追記
Ⅰ	2		49	商工会議所でやっているイベントが、デジタルを活用して画期的。地方であれだけ積極的なイベントはない。多くの人を集客するタイプのイベントではないが、新しさや独創性の点で注目すべきで、もっと認知度が上がって欲しい。このようなイベントが出来るくらい意識が高い人達がいることを何処かに書いて欲しい。	P49に「デジタル技術を活用した展示会(MADE FROM)の開催支援など、地場産業の販路開拓を推進しています」を追記
Ⅰ	2			個人事業主の方はインボイス制度が始まるのでたちまち苦労される。その辺りに対する木目細かい援助ができないのか。	インボイス対応については、商工会議所で勉強会等開催しており、市では実施の予定はない。
Ⅰ	2	②	51	事業承継の話については、今回の総合戦略には盛り込んでいないのか。そこがないと持続は難しい。	「事業承継事業」について「企業の経営基盤の強化」に追加し、基本施策1と2の双方に表示する。

基本目標	基本施策	実施施策 KPI	ページ	意見の概要	修正内容
I	2			デジタル推進課の方々と、オープンデータをどうするというミーティングをしたが、まず役所を変えていかないと企業はしない。市も一緒にやっていくことを見せないといけない。役所は仕事がいっぱいだとよく言うが、民間も同じで、もっとせっぱつまっている。すぐは無理だが、専門的なところは外部から人材を入れたらどうかと思う。	オープンデータについては、基本目標Ⅳにて記載する。
I	2		50	産業技術総合研究所の北陸デジタルものづくりセンターが春江にでき、そこには繊維に関する最先端の機械を揃えていて、ヘルスケアを進めるために使える繊維産業の活用する手はない。大学等と共同研究を組むと国から研究費も出る形となっている。ぜひ活用して欲しい。	目指すべき方向性のなかに産総研との連携について「新たに開所した「北陸デジタルものづくりセンター」と連携し、企業の高付加価値化、生産性向上等のための取組の支援につなげます」を追記
I	4	①、②	55 56 57	女性活躍と言う言葉が多く出ている。資料2-2では女性活躍に関しては、女性が役職に就く、女性起業家、男性の育児休暇が見受けられる。数値で言う達成率は簡単だが、それを達成した後のその家庭、例えば役職に就いた女性が多くなってくると、そのしわ寄せがその家庭で出てくるが大丈夫なのか。	基本施策 ジェンダー平等で働く女性が輝くまちの創造 に修正 現状 2・4段落目修正 令和10年度にむけて目指すべき方向性 3・4項目目 修正 計画期間の方向性(実施施策)と手段(実施事業) ①女性の活躍支援「女性活躍プラットフォーム創出事業の事業内容修正 ②ワークライフバランスの推進⇒ワーク・ライフ・バランスの推進 「ワーク・ライフ・バランス推進事業」の事業内容修正
I	4	KPI	57	男性の育児率。これを取得することで本当に女性が満足しているのか。達成した後の家庭で本当に幸福度が上がっているのか、今後踏み込んで見て行けると良い。	(KPI)市役所男性職員の育児休業取得率の目標値を100%とする。
I	4	KPI	57	市役所では全員育児休暇をとっているということか。1日でもとったら良いのか。	(KPI)市役所男性職員の育児休業取得率の目標値を100%とする。
I	5	②	59	六次産業化とは違うということで良いか。	事業内容としては、加工品開発や販路拡大に取り組む生産者への費用支援である。 (※ 6次産業化が正当。「六」は使用しない。)

基本目標	基本施策	実施施策 KPI	ページ	意見の概要	修正内容
I	5	KPI	60	スマート農業の経営体について教えてほしい。	スマート農業の経営体数：6経営体 (市・県補助事業より) ・エコファーム舟枝(ドローン) ・定次グリーン(トラクター) ・熊野克信(ドローン) ・野尻知(田植え機) ・ファーム東陽(自動水門) ・高田信男(ハウス自動開閉装置) 令和4年度で3経営体追加されている。 実績に応じて、KPIを修正する。
II		KPI	61	20番「若者の社会減の抑制」、若者が県外に出ていってしまう、戻ってこない。鯖江市だけではなく福井県全体の問題。高校を卒業された方が県外の大学に進学する人、特に関西圏への流出が顕著に出ている。原因として、入りにくかった関西の有名私学に入りやすくなっている。推薦入学も沢山あって、そんなに学力が高くないでも入れる状況になっている。若者が減っているから余計に若者が減る状況になっている。その辺りを心配しなければならない。福井県自体の政策も追いついていない。鯖江市として別の観点から魅力を伝えていく努力が必要。	人口ビジョンにおいて、転入超過だった5年前との詳細を比較。どの年代の転出が転出超過の要因となったかを確認し、施策に反映できないか、研究、検討する。 基本目標全体のKPIについては、社会増減数とする。
II			61	「若者が集い、住みたくなるまちをつくる」について、若者だけでなく、若者をサポートする存在もいる。「若者」という表現等を見直してもらいたい	「ひとが集い、住みたくなるまちをつくる」という表現に修正
II	1		62	基本施策1「若者の夢を応援するまち」についても、今やっていることが反映されておらずもったいない。現状に書いてある「若者による創造力を市政に活用する事業に注力してきました」とあるが、地元の学生がやることは当たり前である。鯖江の強みは、大学のない鯖江。実際にアートキャンプや津田塾等いろいろやっているの、地元の若者はもちろんのこと全国の若者による想像力を高めていくなど、やっていることを盛り込んで欲しい。	クロスアート、プラコンなど市外の学生との連携についても、現状の欄に追記
II	1		62	「さばえSDGs部との連携」、この文章で市と学生との連携が見て取れるが、折角学生団体が市以外のところと連携しているのに明確になっていないもったいない。文章に取り入れることが出来るなら反映して欲しい。	現状の欄に、学生団体が市以外と連携している状況(探究活動・SDGs部)について行政・経済界・産業界が地域ぐるみでサポートしている姿を追記

基本目標	基本施策	実施施策 KPI	ページ	意見の概要	修正内容
II	1	KPI	64	OG課についても説明に加えてもらいたい	KPIで成果指標を「JK課・JKOG課が地域を巻き込み行う自主事業数」に変更した。 KPIのところで「JK課プロジェクトサポート新企画数」の行を削除した。
II	1	③	63	KPI「市内高等学校への伴走支援数」について、市民がサポートした取組があるが、現状値が0となっている。市民が活動支援していることについても、入れるといいのではないか。	現状の欄・事業内容のところで市民団体について追記した。
II	1	KPI	64	KPI「移住相談の件数とアクセス回数」とあるが、数字として意味がないのではないかと	基本施策2に、福井県の発表する「新ふくい人」のうち鯖江市に転入してきた人の数を新たなKPIとする。
II	5		73	基本施策5に関連して、RENEWのことは書いてあるのか。オープンファクトリーなどの産業観光のことか。“日本最大規模”とか“何万人集客している”など、事実なところをもっと出した方がよい。	RENEWの部分の現状の説明を修正
II	5	③	74 75	海外出身者に優しいまち、インバウンドへの対応、外国語でのPRコンテンツ数などはどうか	実施事業に追記 目指すべき方向性に、「ホームページやパンフレットなど外国語でのPRコンテンツを充実させます」を追記
II	5	③	75	「さばかん」の充実とあるが、「さばかん」の情報が古くなってきているため更新しやすいよう新しくしてはどうか 元から英語対応、国内外どちらでもできるようにする	事業内容に「さばかん」のリニューアルを追記。産業観光のコンテンツについても発信していく旨、産業観光の欄にも追記
II	5		74	丹南地区をまわるなど、隣接市町と連携した取組を記載することはできないのか	方向性・事業の欄に記載あり。
II	6		76 79	「ふるさとの歴史・文化の再発見」として、基本施策5の⑤でも、基本施策6の③でも同じ事業があがっているのは、意味合いが重複するからか。	「再掲」について、他事業も含めて一括確認
II	6	KPI	80	高校生を対象としたアンケートは取らないのか 鯖江高校だけでも入れるとよい	高校生アンケートの定期的な実施については、設問内容を含めて今後の検討材料とし、今回のKPIには設定しない。

基本目標	基本施策	実施施策 KPI	ページ	意見の概要	修正内容
Ⅱ	7	KPI	83	シティプロモーション、鯖江の魅力というところで 市民の満足度などを数値化してKPIにするのはどうか	「総合戦略に関する市民アンケート」での調査項目とし、KPIに追加する。現状値は「-」とし、目標値は他項目の平均値69.3%+5%で75%とする。
Ⅲ			84	この目標の主語は、子どもだけではなく、全ての方の基本目標として捉えればよいか。	目標全体のサブタイトルを「こどもまんなか」とすることで、子育てのみのイメージとになってしまうため、分科会で賛同者の多かった「幸福寿命」という言葉をキーワードとして使用する。
Ⅲ			84	施策の順番に優先順位はあるのか。例えば、全年齢を対象にする施策を上位に持つと、全世代に向けた目標だと分かるのではないか。	おおまかに、ライフステージの順(結婚⇒出産⇒子育て⇒健康増進⇒福祉サービス)に掲載しており、このままの掲載順としたい 全体の説明文のなかで、子ども対象の施策だけではないことがわかるよう追記する。
Ⅲ		KPI	84	この目標に対して、KPIが出生数で良いのか。目標「育てやすい暮らしやすい」に関するアンケートを取り指標にするのはどうか。	KPIとして、出生率だけでなく、全体として自然増減の減少をゆるやかにすることを目指す章であるため、自然増減数を目標値とする。
Ⅲ		KPI	84	全指標の中に、市全体の人口は入れないのか。	基本目標Ⅱで社会増減数を、基本目標Ⅲで自然増減数をKPIとして持ち、結果として市全体の人口を考慮する形とする。
Ⅲ	4		100	「幸福寿命」は分かりやすい言葉だと思う。KPIの数値に幸福寿命が指標として入る方が良い。	幸福寿命を図る客観的な指標や定義がないため、全高齢者に占める介護認定を受けていない人の割合から算出する「元気生活率」を客観的数値として「基本施策4 すべての人が健康で生涯青春のまち」のKPIのひとつとしている。
Ⅲ				事業中や実施期間等の記載があると分かりやすい。	全ての事業の開始年度や実施期間を記載することはできないが、KPIについて、どの期間中の数値かわかるよう表記を工夫する。

基本目標	基本施策	実施施策 KPI	ページ	意見の概要	修正内容
Ⅲ	1	④	85 89	実施施策①と④が合体したような事業、結婚出産が大きな目標なので、このイメージが上がれば出生率は上がると思う。女性が結婚出産子育てをすることが、マイナスのイメージ持っている方はやはり多いと思う。そこを塗り替える事業をもっと実施していった方が良い。	アンケートのクロス集計結果では子どものいない20代の満足度が低い結果(全体59.9% 20代子どものいない世帯48.2%)となっていることを現状と課題に追記 計画期間の方向性(実施施策)と手段(実施事業) ④ワークライフバランスの推進⇒ワーク・ライフ・バランスの推進 「ワーク・ライフ・バランス推進事業」の事業内容修正
Ⅲ	1	④	89	女性活躍などについて、具体的に事業をやることは難しいと感じる。現場で生き生きと仕事をしている女性を呼んで、リアル体験をもっと高校生に伝える方などの具体例を示すなど、企業と連携した事業ができると面白いと思う。	計画期間の方向性(実施施策)と手段(実施事業) ④ワークライフバランスの推進⇒ワーク・ライフ・バランスの推進 「ワーク・ライフ・バランス推進事業」の事業内容修正
Ⅲ	1			婚活イベントに抵抗があると感じる。雰囲気や情報、実績が分からないと参加しにくいのでは。また、婚活イベントの実績を示してほしい	成婚率の実績把握は難しいため、KPIはこのままとする。
Ⅲ	2		90	「働きながら子育てができるまち」の“ながら”の表現に変わるものはないのか。絶対に働くことが必須でもない方もいると思う。また「両立」という言葉も、働くことと子育ての2つしか選択肢がないようで、あまり好ましくない	ダイバーシティ推進・相談課 基本施策 「自分らしく働き、子育てできるまち」に修正 (働くことと子育ての両方を完璧にこなすのではなく、自分らしくバランスをとり両立することを推進する。)
Ⅲ	2	①、②	90 91 92	基本施策2「働きながら子育てができるまち」の主語は、女性が前提となっているが、男性育休の話もあり男性でもおかしくないと思う。	現状 1段落目 修正 令和10年度にむけて目指すべき方向性 2項目目修正 計画期間の方向性(実施施策)と手段(実施事業) ①女性の活躍支援「女性活躍プラットフォーム創出事業」の事業内容修正 ②ワークライフバランスの推進⇒ワーク・ライフ・バランスの推進 「ワーク・ライフ・バランス推進事業」の事業内容修正

基本目標	基本施策	実施施策 KPI	ページ	意見の概要	修正内容
Ⅲ	3		93	基本施策3「子どもが～」の子どもと、基本目標2基本施策1「若者の～」の年齢層が分かりにくい。子どもと若者の違いについて、具体的に書いた方が良いのか、子どもとざっくりで良いのか。	おおむね「子ども…0歳～18歳 若者…中学生～30代」という解釈が一般的だが、この章での「子ども」は主に小中学生を指しており、高校生への支援については基本目標Ⅱで述べている。本来は「小中学生がいそいそと過ごすまち」とすべきかもしれないが、こは「子ども」という表現のままとして。また、基本目標Ⅰで「若者」と述べるときは、労働基準法上18歳以上、学生連携の文脈では中学生も含まれるなど文脈で判断が必要な箇所もあるが、事業内容等から、ある程度、対象年齢は読み取れるものとし、このままの表記とする。
Ⅲ	3	KPI	96	KPIで「ふるさと学習の参加人数」とあるが、基本施策3「子どもがいそいそと過ごすまち」との関係が分からない。	KPIを「将来の夢や目標を持っている生徒の割合」に変更
Ⅲ	3	KPI	96	鯖江でも成功できる、大丈夫ということを伝えていくことがふるさと学習の目的ではないか。リアルに鯖江で活躍している人を派遣講師として授業を行うのは良いのではないのか。	KPIを「将来の夢や目標を持っている生徒の割合」に変更
Ⅲ	3			鯖江に生まれて、県外の大学に行っても戻ってくる人はどのぐらいいるのか。把握できるのか。	福井県全体では28.2%(2023年)となっている。鯖江市内のみで把握することは難しい。
Ⅲ	3		64	県内の大学に行く場合、県内の子どもが優遇されるのか。鯖江に住むとこれぐらいお得だと分かると鯖江に引越したくなるのではないのか。	市の奨学制度について、基本目標Ⅱ基本施策1「若者の夢を応援するまち」の実施事業に追加
Ⅲ	4		97	「生涯青春」は、「幸福寿命」や「健康寿命」と似ている。どれかにならないか。	P97「健康寿命」を「元気生活率」に修正し、「フレイル(加齢により心身が衰えた状態)を予防するため」を追記 「元気生活率」は全高齢者に占める介護認定をうけていない人の割合から算出する客観的指標として、主に身体的な状態に対して使用。「生涯青春」はすべての世代が社会参加し、学び続けている状態を形容する言葉として使用。「幸福寿命」については、どのような状態であっても人生において「幸せ」を感じることのできる期間として、市が最終的に目指すべき状態として使用

基本目標	基本施策	実施施策 KPI	ページ	意見の概要	修正内容
Ⅲ	5		101 102	基本施策5の現状の説明に、「性別や年齢、障害の有無を問わず」と書かれているが、多様性で外国籍や海外の方はどのように戦略に取り入れるのが気になる。特に新幹線が開通したら、外国人の観光客や移住者も増えてくると思う。書き方を変更することは可能か。	現状3段落目 修正 令和10年度にむけて目指すべき方向性 3項目目修正 計画期間の方向性(実施施策)と方向性(実施事業)
Ⅲ	5	③	102 104	第2回推進会議において、銀行における振込詐欺についてお話があったと思うが、実施施策②や③の事業に入らないのか。	令和10年度にむけて目指すべき方向性 5項目目修正 計画期間の方向性(実施施策)と手段(実施事業) ③消費者保護の推進 修正・追加
Ⅲ	5		102 104	中高生ですりが出回っていると聞く。市として青年教育があっても良いと思う。	目指すべき方向性「幼児期から高齢期まで切れ目のない消費者教育を提供し」および③消費者教育推進事業に青年教育も含まれると考え、このままの記載内容とする。
Ⅲ			84	「幸せ」という言葉はどの項目にも当てはまり、分かりやすいと思う。	鯖江市民が、どのような状態であっても人生において「幸せ」を感じることでできる状態が続くことを目指すべき将来像とし、「キーワード」に「幸福寿命」を使用する。
Ⅲ			84	「育てやすい」という言葉が最初に来ると子ども中心になる。「暮らしやすい」がメインになると良い。	「育てやすい暮らしやすい」は市の「先導的・横断的方針」として公的に表明している言葉であり、このまま使用したい。また、人口減少抑制のため「出産・子育て支援」は総合戦略の大きなテーマの1つでもある。一方で、市民の暮らしやすさや「幸せ」と感じる状態についても市の目指す理想像として重要であると考え、「幸福寿命」を「キーワード」に掲げ、文章でも説明を追加することで強調する。
Ⅳ			40	「鯖江る！」とは、どのようなイメージなのか。意味が分からない、間違っていないかと思われるので、どのように捉えて欲しいこともある。合わせて書いて欲しい。	「さばえる」については、総合戦略の「基本的な考え方」のコンセプトのところ、説明する。
Ⅳ				KPIに掲げるアンケートについて、年齢別の分析をして欲しい。その分析の上で、目標設定や事業の検討をするべき。	KPIとしている「若者が働きやすい環境の充実」「女性が輝くまちの創造」「持続性のある農業の確立」「二次交通網の整備」「快適に暮らせると感じている人の割合」について、年齢別分析を行い、第2期総括に加え必要なものについては計画期間中に施策反映を検討する。
Ⅳ				⇒5年前の年齢別の分布がどう変化したのか分析して欲しい。	同一項目のアンケートについては、必要に応じて比較、分析をする。

基本目標	基本施策	実施施策 KPI	ページ	意見の概要	修正内容
IV		KPI	105	KPIの目標値87.5%は残りを取りこぼすと言っているに等しい。誰一人取りこぼさないのであれば、快適じゃないと思っている人の意見を掘り下げて、きめ細やかなケアができるまちになると良い。	最終的な目標は「快適に暮らせると感じる人の割合100%」だが、KPIの目標値は、スモールステップとする。本項目は、複数分野にまたがる全20項目のアンケートのデータから算出している。満足度の低い年代は16～17歳(75.6%)、満足度の低い項目は、「デジタルファーストの推進(69.3%)」特に顕著な特徴として、65～69歳の「参加と協働によるまちづくり」(54.2%)「安全で良質な住宅供給」(69.2%)があげられる。
IV		KPI	105	⇒目標値100%は難しいので、取りこぼしのないように基本施策の中でカバーしていければ良いと思う。	最終的な目標は「快適に暮らせると感じる人の割合100%」だが、KPIの目標値は、スモールステップとし、快適な暮らしにつながるとされる基本施策のなかで、改善策を考えることとする。
IV		KPI	105	⇒理想を掲げるのであれば、全体としても整合性を図る必要がある。取りこぼしても良いわけではないが、あまり現実離れた目標は達成意欲が下がってしまう。	最終的な目標は「快適に暮らせると感じる人の割合100%」だが、KPIの目標値は、スモールステップとし、快適な暮らしにつながるとされる基本施策のなかで、改善策を考えることとする。
IV			40	⇒「鯖江！」の表現は良い。どんなまちにしたいのかが含まれていると思っている。意味が分かるようにだけしていただきたい。	「さばえる」については、総合戦略の「基本的な考え方」のコンセプトのところ、説明する。
IV	1		51	ITが強調されているが、一方で鯖江の伝統産業や中小企業がたくさんある中で、人材不足が言われている。IT化やDX化が本当に必要な場面だと思うが、必ずしも行き渡っていない。得意だと言われるIT化を鯖江の中で、必要などころに回していくことも重要な戦略である。	地場産業のDX活用事業については、基本目標Ⅰ基本施策2に記載。事業内容に「身の丈にあったIT化の支援から、高度な次元での支援等のメニューを準備し、福井工業高等専門学校とも連携しながら、企業のDX活用を推進します。」を追記
IV	1		108	KPIにオンライン申請件数とあるが、件数より割合が重要だと思う。割合にしてはどうか。	割合に修正
IV	1	KPI	108	実施施策①に電子申請等事業が挙げられているが、デジタル申請ができる数、割合をKPIとするのはどうか。	割合に修正
IV	1	KPI	108	KPIにHP閲覧者数とあるが、HPが役に立ったのかどうかが大変だと思う。データはあるか。	KPIについては、現状値のままとするが、「このページを見て役に立った」割合のデータ分析については、次回KPIの設定に向け、研究していく。

基本目標	基本施策	実施施策 KPI	ページ	意見の概要	修正内容
IV	1	KPI	108	今すぐに入れられそうなKPIとして、デジタル対応サービス率があると思う。申請件数の多いものからデジタル対応に取り組むと満足度も上がりやすいのではないかと思う。	デジタル対応サービス率の代わりに、オンライン申請可能率をKPIとした。
IV	1		107	自動化事業は良いが、簡単なグラフ化・ダッシュボード化をして見える形にしないと市民は分からない。高校でシビックテックを推進しているので、ぜひみんなで作っていきたい。 連携事業の方に、シビックテックやダッシュボード化について触れていただきたい。	基本目標IV基本施策1の「オープンデータ連携事業」にグラフ化、ダッシュボード化の説明を追記した。
IV	1	KPI	107	KPI等の関連データの数値的は大好評に見えるが満足度は低い。所詮マイナンバーで出来ることは限定されているので、そうでないところを切り込んでいくことを市民は求めている。	快適に暮らせると感じる人の割合を求める複数の項目のなかで、「デジタルファーストの推進(69.3%)」は満足度が低い項目であり、デジタル化が進んでいないと感じる面については「情報発信のスピードと分かりやすさ(33.3%)」「デジタル技術を活用した行政サービスの周知(27.1%)」という意見があることから、デジタルを活用した情報発信に注力必要がある旨を課題と方向性に追記する。
IV	2		110	「魅力あふれるまちなかの創造」では、もっと鯖江らしいものを出した方が良い。まちなかに和菓子屋が非常に多く、また神社やお寺も多い。これは鯖江ならではの、その辺りをもっと盛り込んだ方が良い。ショッピングセンターを作っていくのは簡単だが、そこにしかない歴史文化をどう活かしたまちづくりをしていくのがこれから問われている。インパウンドなど外に向けてもそうであるが、そこにいる人に誇りを持ってもらう事が大前提。知ってもらうことを伝えていかないと、大事さも伝わっていかない。	目指すべき方向性を「多様な主体と連携・協働し、現在の中心市街地が形成される礎となった誠照寺門前町や鯖江藩陣屋町などの歴史を紐解き、市の魅力を再発見する事業を展開するなど、歴史・文化資源を活かしたまちなかエリアの活性化を図ります。」に修正する。
IV	2	KPI	105	誰にとって魅力的なのか、ターゲットを絞るのか検討するためにも、現状を把握できるデータが欲しい。 現在のKPIでは、現状を測れないのではないか。	現在のKPI「快適に暮らせると感じる人の割合」は、「デジタル」「安全・安心」「地域の防災力」「交通安全」「消費生活」「人権尊重」など「暮らしやすさ」に関連する20項目の満足度の平均値をとって目標値としている。魅力的かどうかを測る客観的なデータについては、今後の検討課題とし、現在は、「快適に暮らす」ことにつながる複数の項目を網羅的に捉えることができる現状のKPIを引き続き採用することとする。
IV	2	④	66 111 119	今後ますます空き家が増えてくるだろうと思うが、それに対して補助金だけでなく、若い人が集まりたい、住みたくなるような施策は考えているのか。例えば、まちなかでモデル地区を設けて空き家を中心にリノベーション等の環境整備を進めてはどうか。	モデル地区は設けていないが居住誘導区域は設けている。空き家の利活用については、安全性、商業的活用、子育て支援、移住定住支援等の面から各課が補助事業を実施しており、基本目標IIの2、基本目標IVの2と4にそれぞれ記載している。
IV	2	③	75 111	まちなかの広い所として、嚮陽会館を壊してそこをいい感じに出来たらとも思う。西山公園と嚮陽会館の今のターゲットが違うのも勿体無いと思っている。進んでいる計画があれば載せても良いのではないか。	基本目標II基本施策5③西山公園エリアの充実および基本施策IV基本施策2魅力③西山公園エリアの充実(再掲)に記載済

基本目標	基本施策	実施施策 KPI	ページ	意見の概要	修正内容
IV	2	KPI	112	KPIの居住誘導区域内の人口率について、現状値と目標値が同じだが目標を達成しているということか。	令和4年度の数字を最低限維持する方向性とし、目標値の修正はしない。
IV	2	KPI	112	KPIに空き家が解消された戸数とあるが、リニューアルを重視するなら、利活用された戸数の方が良いのではないかと。その数値は把握できるのか。	IV-4(P112)のKPIを「特定空家の解消率」に修正
IV	3		114	タクシーが残るような選択も部分的には有ではないかと思う。交通面の対応はいろんな可能性を含めて考えた方がよい。	課題および目指すべき方向性に「各交通機関の運転手確保に関する支援策を研究・検討」する旨を追記 現在、市内タクシー業者にはヒアリング調査を実施しているが、事業化には至っていない。
IV	3		114	東口の駐車場は結構埋まっている。つぶすと困るのではないかと。駐車場をつぶさないという選択肢も含めて考えて欲しい。	デジタルの力でできることの欄に「人流データを活用した鯖江駅および駅周辺整備のあり方検討」を追記
IV	3	KPI	115	幹線交通網の変化を見据えた二次交通網の整備満足度の分母は、二次交通網を使っている人か。使わない人が満足しているとか、していないとか、不思議な感じがする。	現在指標として利用可能なデータは現行アンケートのみであるため、このままのKPIとしたい。市民対象に行うものなので暮らしの中の二次交通の満足度が中心となつていられると思われる。今後は観光目線の二次交通などについても、アンケートの実施を研究、検討していきたい。
IV	4	⑦	116 117 119	安心で快適で魅力的なまちをつくる中で、基本施策4「強靱で安全・安心なまち」の現状を見ると、自然災害がメインであるような気がする。私は金融機関にいますので、犯罪が高度化しており大問題。毎日、詐欺等の相談が何件もある状況である。安全のワードで括るのであれば、そういった面も不可欠だと思う。	現状 追加 令和10年度にむけて目指すべき方向性 追加 計画期間の方向性(実施施策)と方向性(実施事業) 追加
IV	4	KPI	120	「橋梁長寿命化に伴う修繕箇所数」について、2➡2というのは、ということなのか。	2箇所 → 2箇所/年 に変更
IV	4		120	防災、安全・安心なまち、空き家については施策2と重複しているところもある。特定空家がどれだけ解消できたのかというのは、より目標に対して直接的な、意義のあるKPIとなるのではないかと。空き家対策協議会の方でも、今年これぐらいと示されていたと思うので、そちらも踏まえて目標値を設定していただけたらと思います。	KPIを 「空き家が解消された戸数」から「特定空家の解消率(現状値)22.5%、(目標値)50%

基本目標	基本施策	実施施策 KPI	ページ	意見の概要	修正内容
IV	4			WEBカメラをうたうのであれば、その設置箇所数を目標にはできないか。	目標値の設定困難のため、修正なし
IV	5		122	P121下、課題解決に向けて取り組むべきこととして、「事業系のごみ排出量が増えているため、収集業者と協力し削減につなげる必要があります。」とある。事業系のごみ排出量について、数値を把握しているのか。しているのであれば課題に対するKPIとして挙げてもいいのではないか。	目指すべき方向性に「事業所から排出される廃棄物の情報収集・分析を通し、事業系廃棄物削減に向けた研究を行います。」を追記 事業系のごみ排出量については、収集において、製造系事業所、飲食系事業所、アパートなどそれぞれの廃棄物量が把握できていないため、現時点では設定は困難である。
IV	5	KPI	125	KPIの「道路・河川里親の活動団体数」「公園里親の活動団体数」について、活動団体数が同じなのは、現状を維持することに力を注ぎたいということなのか。維持するのが大変という前提があるのか。団体数を維持するための啓発活動などを新たにKPIなどにしないといけないようにも感じるが、今回の目標値の設定は、次の代の活動に引き継がれることも目標に含めたものとなっているという理解でよろしいか。	活動団体を維持するだけでも大変な状況であり、KPIについては現状のままとする。
IV	5	KPI	122 125	KPIは市の「CO2ロードマップ(2050年に向けて)」と整合が取れているのか。	ゼロカーボンの数字は、「ロードマップ」の数字を反映している。 ロードマップについて、「現状」「目指すべき方向性」に追記
IV	5		122	CO2の排出量を減らすのは大変だと思うが、具体的な目途があるのか。大変だと思うが、掲げているのでどれくらい説得力を持ってできるのかと心配に思う。	目指すべき方向性に「J-クレジットなど国の制度をインセンティブとして活用できる施策についても研究・検討します」を追記
IV	5			全体を通して見た時に、基本的にデジタルの力を活用して問題解決をという中で、基本目標IVでは、施策1以外はデジタルの力をどう活用しているのか見えにくいと感じる。デジタルの力を活用して、ここの解決に結びつけたいな、などが書けるとよいと思う。	駅の整備検討における人流データの活用や、ごみ排出量のデータ分析によるごみ排出量の削減などで課題解決につながることを追記